

学生生活を振り返って

理学部生命科学科 吉田恭平

はじめまして後輩のみなさん。私は吉田恭平と申します。ここに載せていることは私の大学生活のごく一部であると思ってください。4年間にあった全てのことはA4用紙1枚では埋まりません。それは私に文章をまとめる能力がないからかもしれませんが、私は自分の大学生活について何か話したいと思います。

私は大学生活の間に多くの人と関わりを持ちました。私の友人のうち1人は入学式から卒業式までの4年間ずっと一緒にいました。その友人との出会いのきっかけは入学式の席が隣というだけのものでした。今思うと些細な出会い方でしたけれど、4年間に得た思い出は大きいものでした。しかもその友人からは思い出だけでなく、これからの私の人生に役立つであろう指針を学びました。ここでその指針については恥ずかしいので話しません。とにかく、私において、その友人から受けた影響は大きかったのです。友人は彼一人だけではありません。もっといます。何人かは数えていませんけど、そんなことは関係ありません。私にとって、友人一人一人の影響力の大きさに違いはありましたが、間違いなくその影響が今の私へと繋がっていると言えます。感謝しています。友人だけでも相当な影響があったのですが、何も大学生活で関わるのは友人だけではありませんでした。学校の先生や研究室・サークルの先輩、他のコミュニティーの人達とも関わりを持ち、その人達からも多大な影響を受けたと思っています。今も受けています。そんな影響を受け続けた私が今、何を考えているのかについてここに言葉として残しておきます。これを後で私自身が振り返って読んで、この時の私はこんな風に考えていたんだという宣誓のようなものにしておきます。私は今更ながらに英語をもっと学びたいです。研究を進めていく上で英語は必須です。それと同等もしくはそれ以上に英語を会話に利用できるということの大切さを大学生活を通じて学びました。大学では、海外から来られた方もたくさんいます。話をする機会も多いです。最初はお互いに意思疎通が全然できませんでした。というか私が一方向に英語を聞き取れないし、言いたいことをぱっと英語で話せないし、全然会話なんてできませんでした。しかし、私はコミュニケーションを取りたいと不器用なりに相手に伝えました。自分の知っているボキャブラリー及びボディ・ランゲージを使って自分の考えを相手に伝えるように努めると、相手も理解してくれるように努めてくれました。たまたま英語の会話だけで意思疎通できることもあります。英語で話し合っただけで笑ったこともあります。しかし、私の英語の能力は残念なところが未だ多いです。これから英語をもっと学んで、人生を生きていく上での楽しみを増やしたいと考えています。

自分のことばかり話して後輩の方にはつまらない思いをさせましたけれど、知っておい

てほしいことは大学で何を感じて何をしようと構わないということです。個人の勝手です。結局、誰しものがこれからの人生において何かを感じて何をしようかと悩みながら生きていくのだと思います。大学は自分を見つめ直すのによい場所だと考えてください。